

平成28年度

一般社団法人 神奈川県総合型スポーツクラブネットワーク

クラブマネージャー研修会報告



研修会実施日	12月4日(日)～5日(月)
場所	ホテル 花月園 箱根町仙石原 2-2
参加者	23名

I. 実施内容

1. 開催日時 平成 27 年 12 月 4 日（日） 13：30～20：30
2. 開催場所 ホテル小涌園
箱根町仙石原 2-2
3. 出席クラブ&人数 10 クラブ 以下略称
(寒川総合、高津 SELF、KAZ スポーツクラブ、
若葉台、よこすか総合、あすぽ、城下町、ライフネット
三浦 S&C クラブ 県スポーツ局、体育センター、県体協、)
合計 23 名 (宿泊 15 名)
4. プログラム
4 日 13:30 開会あいさつ 青田理事長

13:40 「障がい者スポーツの概要とかながわパラスポーツについて」
講師 神奈川県スポーツ局スポーツ課
課長代理 奥津 賢一氏

15:15 ディスカッション
「総合型地域 SC として障がい者スポーツの対応について」

16:20 ボッチャとラダーゲッター体験

16:40 まとめ&報告事項

18:00 懇親会

5 日 朝 解散

II. 会議内容

1. 第 1 部 「障がい者スポーツの概要とかながわパラスポーツについて」
講師 神奈川県スポーツ局 スポーツ課
課長代理 奥津 賢一氏
 - ・障がい者スポーツの歴史と意識の変容について動画を含め説明いただく
ロンドン開催時とリオ開催時では、障がい者に対する全世界的な意識の違い
が明確に表れている。
 - ・神奈川県をとり巻く環境についてご説明があり、スポーツ庁設置
に合わせ神奈川県でもスポーツ局が設置され、スポーツ行政をより効率的、
一体的に推進する体制が出来上がった。
 - ・超少子高齢化社会を乗り切るための施策として、県民の運動、スポーツの実

態を把握し、3033運動を推進中だ。

- その中で、かながわパラスポーツ宣言がH27年1月に打ち出された。パラスポーツとは、障がいを持った方がスポーツをするということだけでなく、すべての人が自分の運動機能を活かして楽しみながらスポーツを“する”“観る”“支える”ことと考え方が広がっている。
- しかしながらパラスポーツの普及には、普及啓発上の課題や機会の不足、実践する人材不足、組織間の連携、環境の不足等多くの課題があることも事実だ。
- 県内の障がい者スポーツの大会やイベントの情報が行き届かない点もあるが、総合型SCにぜひ協力してほしいため、後のデスクッションにつなげていただきたい。

2. ディスカッション

<テーマ> 「総合型SCとしての障がい者スポーツへの対応について」

主な意見

- 総合型SCとして設立2年だが、障がい者スポーツへの取り組みの重要性を考え、知的障がい児施設へ能動的にポールウォーキングの提案を実施している。こちらから積極的に働きかけていく必要性を感じている。
- 所属しているセーリング協会では、障がい者向け（盲、知的）のイベントを考えたが、ハード面（バリア）で受け入れ体制がないため苦慮したが、総合型でも同様にハード面まで考えないといけないのではないか。
- 大きなイベントでは、ともかく日常行っている種目やプログラムによっては、我々が今できる範囲で取り組むことができるし、徐々にでも取り組むこと、実施できることからやるのが重要ではないか。
- バリアフリーという考え方からこれからはアクセシビリティという考え方に変わろうとしている。つまり、障がいの有無に関係なくすべての人に使い勝手が良いということであり、バリアがあれば、バリアを乗り越えられる車いすを作成するということだ。
- 当面、バリアをすべてなくすることはできないので、車いすを皆で持ち上げることもその対応の一つとして取り組むことが重要だ。
- 先日、バドミントンを希望する知的障がい者の人から入会の申し込みがあった。バドミントンの障がい者対象の試合に出たいというものだったが、試合の有無の情報すら我々には「ない」ことに気付いた。また、障がい者スポーツ指導員の資格もスポーツの内容によっては必要だということもあるし、特別な対応にはそれなりのコストも伴うことも認識しておかなければならない。
- 障がい者対象の試合は、障害者スポーツ協会で実施しているが、その情報が総合型SCに届かないという組織的な問題もある。
- ウェイトリフティング界では、パラパワーリフティングとして大会も開催され、国内大会、世界大会、オリンピック等広く参加できる仕組みがある。
- 障がい者スポーツにも競技としてTOPを目指す対応と楽しむスポーツとしての対応があるため、当面総合型SCとしては、楽しむ生涯スポーツに目を向けて、対応を考えるべきではないか。

- ・県民スポーツ週間を利用して、ボトムUPを図っていく必要がある。
- ・一口に障がい者スポーツといっても、いろいろな障がいを持った人がいることを理解し、障がいの内容そのものの勉強もしなくてはならないのではないかな。
- ・また特別支援学級の児童を含めた「ホリデイジム」も考えていくことも必要だ。

<まとめ>

- ・多くの意見が出たが、総合型SCとして、私たちはまず障がいの内容を理解し、我々ができることから、少しずつでも取り組んでいくことが重要と考える。その中で、すでに対応しているクラブとの意見交換を含めた連携を取り、協力していければ、KSNとしてのモデルが出来上がると考える。
- ・KSNとして、できること、今後やるべきことを理事会で測り、精査して皆さんが、障がい者スポーツを受け入れられるよう対応していきたい。

3. ボッチャ、ラダーゲッターの体験 16:20～16:50

- ・全員でボッチャ、ラダーゲッターの体験した。

4. <まとめ>

- ・神奈川県を取り組みを奥津課長代理にプレゼンいただき、パラスポーツとして、障がい者スポーツを含めて考えていく必要性を新たに認識でき、その後のディスカッションも大変有意義であった。
- ・KSNの仲間として、協力してこの問題に取り組んでいけるよう理事会としても考えていきたい。
- ・別件になるが、総合型SCの関東ブロック大会がH30年度に神奈川県で開催されることが決定している。場所、内容を含め検討を来年度から始めなければならず、協力をお願いしたい。

以上

<夕食&懇親会> 18:00～20:30

次ページ以降 写真添付

「障がい者スポーツの概要と神奈川県での取り組み」についての講演



奥津課長代理



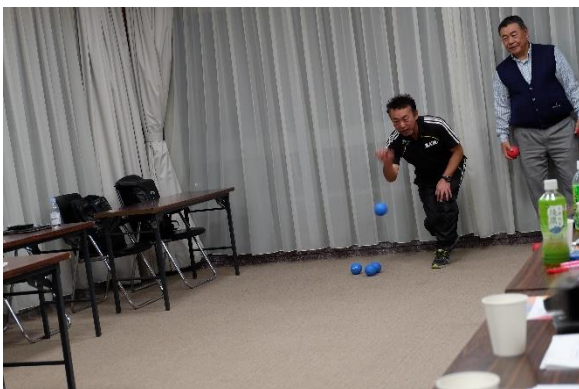
講演を聞くメンバー



ディスカッション風景



ボッチャ、ラダーゲッターの体験風景



楽しい懇親会風景



以上